

みる つくる
かたる

2006

VOL.33
NO.2 (通巻94号)

ART NEWS 千葉県立美術館報

企画展「篠崎輝夫展」

篠崎輝夫（昭和4～平成17）は、成田に生まれ、重厚で詩情あふれる画面で成田の風物や晩年はシルクロードに取材した光景を表現し続けた洋画家です。篠崎は、昭和27年に千葉大学教育学部美術科を卒業し、昭和30年から笹岡了一に師事します。千葉大学在学中の昭和26年に光風会展に、昭和34年には日展に初入選し、それ以後、主に光風会展、日展に出品を続け、光風会常務理事を、日展においては評議員をつとめました。当館では、篠崎の初めての回顧展を平成19年1月27日（土）～3月4日（日）の会期で開催を目指して準備を進めています。

今回の展覧会準備のための調査において、初期の作品として、千葉大在学中の《河岸》、《白樺横岳》などの風景画が見つかっています。また、このころ光風会展や県展の出品目録には、《浚渫船》（第37回光風会展、昭和26年）、《浜の秋》（第3回県展、昭和26年）などの題名がつけられており、主に風景画を制作していたと思



《繪馬》昭和35年

われます。昭和27年に千葉大学を卒業した篠崎は、成田市立成田中学校教諭の職に就き美術を指導しました。そして、昭和30年には日展や光風会で活躍していた笹岡了一に師事します。笹岡の研究所では、週2回モデルを呼んでデッサンの研究会を行い、銀座の画廊でデッサン展を開き成果を発表したこともありました。また、これと前後してJAN（新青年美術家集団）の研究会において柳亮に構図法を学びました。人物画を得意とした笹岡の影響から、人物をモチーフにした作品を描くようになります。昭和33年の《三重奏》は3人の楽器を演奏する人物群像で光風会K氏賞を得、以後たびたび光風会展で受賞しています。日展に初入選した昭和34年の《奏でる》も楽器を演奏する人物群像で、このとき篠崎は30歳になっています。

翌昭和35年、大学卒業以来勤めてきた成田市立成田中学校を退職します。このころ日本古来から信仰のため

に寺社に奉納されてきた絵馬に魅せられ、篠崎の最初の代表的なシリーズとなる「絵馬による連作」を思いつたと語っています。シリーズでは絵馬のモチーフが作品の基調となり、画面上に次々と展開していきます。昭和37年光風会会員に推挙され、昭和39年には第7回新日展に出品した《繪馬》で特選を受賞します。このシリーズは、篠崎の生涯にわたる重要なものとなり昭和54年には、《絵馬による》が光風会第65回特別賞を受賞し、昭和55年に、篠崎は51歳で日展会員に推挙されます。この年初めて中国西域取材旅行に出かけ敦煌の風景に触れます。このとき、中国の大地を歩き日本古来の伝統文化の源流を実感し深い感銘を受けます。以後篠崎にとって、絵馬シリーズから継続するテーマとして古代シルクロードをモチーフとする作品の連作が始まります。

西域取材の際に日記がわりに描かれた水彩スケッチは多くの数が残されています。それらは篠崎の確かなデッサン力により広大な土地が描かれ、色調は褐色が中心となり、油彩の大作へと移行する重要なベースとなっています。この西域の取材を始めた頃から小湊鉄道沿線の風景や養老溪谷の四季折々のスケッチを描き、『房総の叙情詩 養老溪谷賛歌（小湊鉄道沿線を描く）』として平成4年に出版しています。西域の砂漠を描き続けた反動で、水のある風景を描き始めたようです。

平成7年から9年にかけて、幅5メートルを超えるような大壁画を2点制作します。市原市鶴舞の千葉県循環器病センターの《河西通廊西域記》、もう一点は、長南町の長南パブリックコースの《シルクロード考》でともに来館者の目を楽しませています。いずれも篠崎が西域に取材してきたモチーフを再構成してまとめ上げた作品で、敦煌の莫高窟で見た朱色を基調に描かれました。

平成10年以降の作品には、西域の風物や若い頃からこだわった絵馬のモチーフに加え、仏像の姿が画面を飾



《西域残映》平成14年

るようになります。この時期の代表作には平成14年の《西域残映》や平成16年の《遙かなり敦煌》があり、西域取材に基づく古代中国のロマンを表現した画面は見る者を圧する迫力に満ちています。

今回の展覧会には、約100点の油彩画とデッサン・水彩画を出品しますので、この機会にご来場いただき作品をご覧ください。（高橋 寛）

企画展「篠崎輝夫展」関連事業

☆美術講演会

光風会展、日展などで共に活躍し、篠崎輝夫と交流があった洋画家寺坂公雄氏（日本芸術院会員）に「篠崎輝夫を語る」と題して、彼の画業と人生を振り返っていただきます。

開催日時 平成19年1月27日(土) 13:30～14:30

会場 千葉県立美術館 講堂 定員200名

参加方法 入場無料です。直接会場へお越しください。

☆ミュージアムコンサート

一歌とピアノ三重奏による「世界と日本の名曲集～旅とロマン～」

企画展「篠崎輝夫展」関連事業として、ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉により、ミュージアムコンサートを開催します。作品のモチーフとして度々描かれたシルクロードなどにちなみ「世界と日本の名曲集～旅とロマン～」をテーマに、〈喜多郎「シルクロードのテーマ」(NHKTV「シルクロード」より)〉や〈月の砂漠〉などの曲を、歌とピアノ三重奏により演奏します。

開催日時 平成19年2月24日(土) 14:00～15:30

会場 千葉県立美術館 講堂 定員 200名

参加方法 往復はがきに「ミュージアムコンサート希望」と書き、氏名(複数名の申し込み可)・住所・電話番号・年齢を明記の上、応募券(企画展入場時に配布します)を貼り、美術館コンサート係まで申し込んでください。

締切は2月14日必着とします。定員を超えた場合は抽選となります。



(昨年度のミュージアムコンサート)

☆「馬頭琴の調べ」

篠崎輝夫の作品のモチーフとして描かれたシルクロードにちなんで、中国内モンゴル自治区からの留学生で、モンゴルの伝統楽器である馬頭琴の演奏家であるエルデ

ンダライさんの演奏を楽しむコンサートを開きます。馬頭琴の2本の弦と弓は馬の尾の毛で張られており、棹の先に馬の頭が彫刻されていることからその名があります。

開催日時 平成19年2月11日(日) (予定)

会場 千葉県立美術館

参加方法 入場無料です。

直接会場へお越しください。

※日程は変更もありますので、詳細はお問い合わせ下さい。

☆ワークショップ「篠崎輝夫展」関連あーと

企画展「篠崎輝夫展」に関連したワークショップを開催します。

篠崎の絵画には、絵馬やシルクロードの旅で出会った風俗や石窟寺院などのモチーフが繰り返し現れました。好んで描いたシルクロードは、さまざまな人が行き交った文化が痕跡として残されています。

今回のワークショップは、篠崎を魅了したシルクロードにちなみ、あーと体験しようというものです。あなたのイメージするシルクロードで、第7展示室を彩りましょう。

◆第5回ワークショップ「シルクロードであーと体験」

シルクロードの布をテーマに、ボクのわたしのオリジナル作品を作ってみませんか。

1. こどもの部 2月3日(土)

①10:00～12:00 ②13:30～15:30

定員各25名—小中学生が対象です。小学生以下は保護者同伴で参加してください。

参加費 500円 申込締切日 1月25日(木)

◆第6回ワークショップ「シルクロードであーと体験」

布の染色体験をととしてシルクロードに想いをはせてみませんか。

2. 一般の部 2月10日(土)

①10:00～12:00 ②13:30～15:30

定員各25名—高校生以上が対象です。

参加費 500円 申込締切日 2月1日(木)

※参加方法

往復はがきに、ワークショップ名、住所、電話番号、氏名(複数名の申し込み可)、学校名、学年、参加時間の希望のある方は「午前」・「午後」を明記して、県立美術館ワークショップ係にお申し込みください。応募者多数の場合は、抽選とさせていただきます。参加時間(午前・午後)につきましては、定員配分の都合上、ご希望にそえない場合がありますので、ご了承ください。

県立美術館・博物館合同企画事業

「染めと織り」展を開催します。

11月25日(土)～1月14日(日)

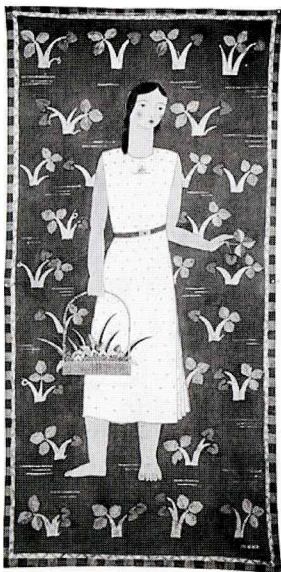
合同企画事業は、千葉県内の県立美術館・博物館が一つのテーマについて、各館の専門性や地域性を生かした視点により、合同で展示および関連事業を実施する事業です。

平成18年度は、県内各地でそれぞれの特徴が見られる「染めと織り」をとりあげ、伝統的な技術、作品、関係資料を歴史・民俗・美術・技術など多角的に紹介し、展示事業や体験事業を行います。

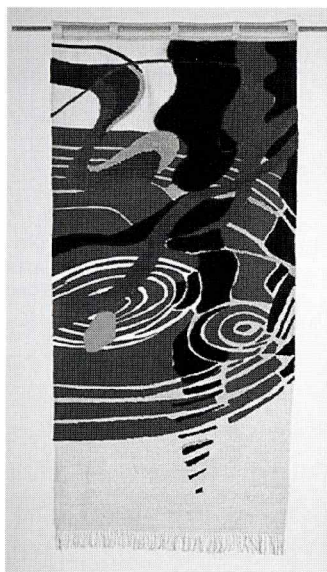
主な展示作品としては、青木滋芳、上野^{あきお}斌郎、二口志保子などの染色作品、万祝・大漁旗などの民俗資料、また、型染めに必要な、へら・刷毛・しぼ紙など作業工程に応じた道具類や型染めの製作工程、あるいは、草木染めの材料となる植物標本や、それらによって染められた布見本など分かりやすく紹介します。

関連事業としてのワークショップも多数予定しています。12月2日(土)・9日(土)(13:00～15:30)に柿渋液で木綿布を染める「コースターを染めよう」、1月7日(日)(13:00～14:00、14:30～15:30)には専用の刀と呼ばれる道具で型紙を好みの図案に彫り、合羽摺の技法で染める「テーブルセンターを染めよう」を行います。参加ご希望の方は、申込が必要です。美術館にお問い合わせください。

この合同企画事業の展示・体験事業を通じて、房総の染めと織りへの関心・理解を高めていただければ幸いです。



上野斌郎《染色壁掛 苺畑》



二口志保子《水面》

企画展

「日本のわざと美ー重要無形文化財とそれを支える人々ー」展を開催します。

11月25日(土)～12月24日(日)



14代酒井田柿右衛門《濁手枝垂桜文鉢》

重要無形文化財保持者は、演劇や音楽、工芸技術などの各分野で、通称人間国宝として広く一般に知られています。

この展覧会は、その中の工芸部門の「わざ」に焦点を当て、個人や団体が、それぞれの地域で永い歴史の中で培い体得した技術を、優れた作品を通して紹介します。

おもな展示作家は、陶芸部門では色絵磁器の富本憲吉、14代酒井田柿右衛門、志野の荒川豊蔵、萩焼の三輪休和、染織分野では友禅の上野為二、長板中型の松原定吉、型絵染の芹沢銈介、紬織りの志村ふくみ、金工分野からは蛸型鑄造の佐々木象堂、肥後象嵌・透の米光光正ら約90作家の作品を展示します。

また、11月25日、26日の両日には、型染めの工程に不可欠な型紙製作実演を、重要無形文化財保持団体に認定されている伊勢型紙技術保存会4名により行います。さらに、12月3日には、「色鍋島のころろ」と題して、色鍋島今右衛門技術保存会会長の14代今泉今右衛門氏による講演会を行います。

上野為二
《一越縮緬地友禅訪問着・歓喜》

千葉県では展示を2会場に分けて行います。県立美術館では、陶芸・染織・金工作品を展示し、中央博物館では漆芸・木竹工・人形などを展示します。なお、染織作品は期間中展示替えを行います。

また、企画展関連事業として、11月26日に、図案を渋紙に彫り、その型紙を葉書に載せ、上から顔料(絵の具)を擦り込む「ワークショップはがきを染めよう」を実施します。

美術館の大学・高校生への教育活動

平成18年度学芸員実習が行われました

今年度は、11大学12名の実習生が、8月4日(金)から8月9日(水)を主とした6日間から12日間の実務実習を受けました。この時期は美術館の行事に対応した、毎日異なる業務を体験するカリキュラムを組むことが可能です。



学生たちは美術館の概要説明を受けたり、年1回の夜間開館に備えて外部のお客様に対応できるように施設の見学をしたり、夜間開館の業務

や夏休みを利用した対外的な事業など、接客を含めた業務にあたりました。また、学芸員の主たる業務である展示関連の計画や展示作業等、連日の実務をこなしました。美術館の職員と同じ目線で業務にあたることは初めての経験で、改めて身体を使っの業務が多いこと、めまぐるしいほどに押し寄せる仕事の波にもめげることのない姿を目の当たりにして、学芸員に抱いていたイメージを一新したという感想をもった学生が多かったようです。そのような中、大学で学んだ理論を実際の現場でとまどいながらも生かそうとしていたようでした。また疑問点や矛盾点、果ては日本の博物館をとりまく現況を、美術館の裏側をとおして感じ取った学生も多かったように見受けられました。

新たに研究を進める意欲を胸に、夏の暑い最中の数日間を、学芸員を目指す目的をもった仲間と過ごしたことが、一生の宝となってくれることを期待しつつ、各職員がそれぞれの持ち場で指導にあたりました。

高校生インターンシップが行われました

本年度も、県が就業体験の機会を提供するための千葉県庁インターンシップ実習生の受入を、高校生の美術館セミナーと兼ねて実施しました。

期日は高校生が参加しやすい夏休み期間の8月22日(火)・23日(水)の2日間を中心に行い、参加者は県立千葉女子高校、県立松戸六実高校、県立船橋芝山高校、桐朋女子高校の4校16名でした。



体験の内容は、ガイダンス、館内施設見学(バックヤードを含めて)、展示鑑賞・発表、美術工芸品の保管と取扱い、彫刻作品の撮影、情報資料整理作業、創

作体験等で参加者は充実した時間が過ごせたようでした。

美術館からのお知らせ

実技講座のご案内

1～3月に実施する実技講座です。

金工講座

〈内容〉銅版レリーフと彫金の制作を通して、各種工具の取扱い方を学習するとともに、金工の基本的な技法を修得する講座。

〈日程〉1月16日(火)～19日(金)、23日(火)～26日(金)、30日(火)、31日(水) 10日間

〈定員〉18名

〈講師〉小林正利先生

〈費用〉14,000円

〈締切〉12月21日(木)

篆刻講座

〈内容〉篆刻の魅力を堪能し、基本的な技法や用具の取り扱い方を修得する講座。今年度は素焼きの印材を彫り、釉薬をかけて焼く「陶印」を作ります。

〈日程〉2月13日(火)～15日(木)、20日(火)、21日(水) 3月1日(木) 6日間

〈定員〉20名

〈講師〉細谷恵志先生

〈費用〉10,000円

〈締切〉1月18日(木)

利用案内

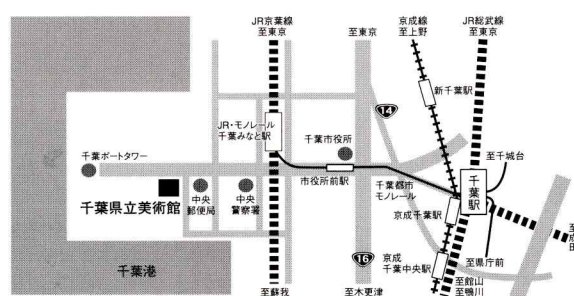
開館時間 午前9時～午後4時30分

入館料 常設展 一般 300円 高校・大学生 150円

企画展 一般 500円 高校・大学生 250円

小中学生・65歳以上・障害者手帳保持者の方(介護者含む)は無料です。「年間パスポート(1,500円)」もごぞいます。

交通



JR京葉線・千葉都市モノレール 「千葉みなと駅」下車徒歩8分
JR総武線 「千葉駅」下車東口12番バスのりばから「千葉ポートタワー」行「県立美術館・中央郵便局」下車徒歩1分

〈東京方面から〉東関東自動車道「湾岸習志野」I.Cから約20分
〈成田方面から〉東関東自動車道「千葉北」I.Cから約25分

〒260-0024 千葉市中央区中央港1-10-1

電話 043-242-8311

<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/>

千葉県立美術館館報「みる かたる つくる」VOL33-2(通巻94号)
2006年11月15日発行